CAS｜自発性の臨床記録

01｜評価結果と、評価できた条件を記録する

氏名／ID：_____ 評価日：_____ 評価者：_____

使用版：_____ 観察期間：_____〜_____

情報源：□本人 □家族 □看護師 □療法士 □その他_____

事前確認｜行動を妨げる条件

□意識・覚醒 □言語理解 □視聴覚 □運動・動作 □痛み・疲労 □気分・睡眠
□薬の影響 □病前の習慣 □活動機会 所見：_____

正式用紙からの転記｜5つの結果を独自に合計しない

構成	結果・単位	根拠・実施条件
1 面接		
2 質問紙法		
3 日常生活行動（CAS3）		
4 自由時間の観察		
5 臨床的総合評価		

CAS3の計算確認｜他の尺度には流用しない

評価可能項目数 n：_____／16 その合計点 S：_____点（各項目0〜4点）

%評価値 ＝ S ÷（n × 4）× 100 ＝ _____% n＝0の場合は算出不可。

計算例：12項目・18点 → 18÷48×100＝37.5%。高いほど低下が強い方向。

評価できなかった項目・理由（0点や4点として埋めない）：

原版との照合

□配点・単位を確認 □規準・カットオフを確認 □未評価と0点を区別
参照した版・ページ／解釈：_____

実施・採点は原版をご確認ください。本紙はCASの質問紙ではなく、結果の補助記録です。
正式マニュアル・評価用紙の案内 ／ 開発報告：加藤ら，2006

CAS｜自発性の臨床記録

02｜必要な促しを見つけ、生活の変化を追う

氏名／ID：_____ 記録日：_____ 担当：_____

行動観察｜時刻・場所・活動機会を残す

日時・場所／活動	促し前の行動	促し・介助の内容	その後の行動

開始・継続時間は補助情報。CASの採点基準には加えない。

身体・認知面の制約／疲労／病前の習慣／観察できなかった事情：

本人・家族・スタッフの見方をつなぐ

一致した点／異なる点と、観察場面の違い：

支援計画｜本人にとって意味のある一手から

本人の目標：_____

活動の準備・手がかり／担当：_____

必要な促し・介助／減らす条件：_____

再評価｜点数と、自発行動の両方を比較

次回：_____ 比較する活動・観察条件：_____

□同じ項目・条件 □変更あり（理由：_____）

自分から始めた回数／促しの回数／本人の負担などの変化：

CASの単一得点だけで退院・自立を予測しない。急な反応低下は体調・意識状態も確認。

小浜ら，2014：CAS3の家族・看護師評価 ／ Skidmoreら，2015：方略訓練